

ふるさと歴史アラカルト

岩国の城めぐり〜高森城〜

岩国の城といえば、まず思い付くのは江戸時代の初めに築かれた岩国城ではないでしょうか。しかし現在の岩国市域にかつてあった城のほとんどは、戦国時代以前に築かれたものです。その中から今回は岩国市美和町生見にある高森城について紹介します。

高森城は、生見の牛ヶ多和地区と北中山地区の境にある山に築かれました。築城時期は室町時代中頃とされ、周防・長門両国（現在の山口県）を中心に力を持った守護大名・大内氏の家臣である岐志四郎左衛門（通明）により築かれたと伝えられています。天文20（1551）年、大内氏の重臣・陶隆房の挙兵により大内義隆が自害したのち、岐志氏は陶氏に従ったものと考えられています。

その後、毛利氏と陶氏の間で争われた厳島の戦いで陶氏は敗れ、毛利氏の周防・長門両国への侵攻作戦が始まります。岐志氏は毛利氏との戦いに敗れ、高森城も落城しました。以後は毛利氏の家臣・坂新五左衛門（元祐）が城将

として入城し、毛利氏により山代方面への侵攻拠点として利用されることとなります。

次に現在確認できる高森城の遺構について見てみましょう。高森城は南北約390m、東西約280mの城域に、山頂部分にある本丸を含んだ中心曲輪群、山頂部から西側の尾根先にある西側曲輪群、北側の尾根先にある北側曲輪群の3つの区画により構成されています。築城当初の高森城は、本丸と隣接する曲輪のみの小規模なもので、後に毛利氏による拡張・整備が行われ、現在の規模になったと考えられています。

現在、北側曲輪群（登城者用の駐車スペース周辺）から本丸までは登山道が整備されており、中心曲輪群の一部を鑑賞できます。また本丸南側の急斜面を下ると、毛利氏時代に整備された石積を見ることが出来ます。

高森城近くにある牛ヶ多和地区には岐志氏ゆかりの史跡も残り、併せての散策もおすすめです。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

城跡を訪れる際は、環境美化に努めるなど、マナーを守って鑑賞しましょう

※城を構成する区画のこと。堀や石垣、土塁などで囲まれることが多い



写真…高森城中心曲輪群南側の石積

岩国市 人口・世帯

人口 129,241人【前月比 -35人】 男性 61,601人 女性 67,640人

世帯 65,392世帯【前月比 +44世帯】 ※外国人人口を含む(2022年6月1日現在)

交通事故発生件数

5月分事故件数 17件(85件) 死者数 0人(0人) 傷者数 20人(97人)

※高速道路発生分を除く。()内は2022年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337